

セルフサービス アナリティクスのための クラウドデータ管理

メリット

- 信頼性、適時性、関連性の高いデータで、セルフサービスアナリティクスを実現
- 業務担当者が、全社のデータを簡単に探索および把握し、アナリティクスに活用
- マルチクラウド環境とハイブリッド環境からアナリティクス用のデータをすばやく自動的に統合
- 信頼できるデータレイクに基づいて、特定の目的に沿った実験的なアナリティクスを迅速に実行
- パブリッシュ/サブスクライブ型のデータ基盤を活用して、オンデマンドで関連性のあるデータを受信

信頼性、適時性、関連性に優れたデータの力を最大限に活用して、セルフサービスアナリティクスを実現

今やデータはあらゆるユーザーにとって重要な存在になっています。セルフサービスアナリティクスを使うことで、データに基づく業務上の意思決定が可能になりますが、クラウドやハイブリッド環境内の企業データの量とタイプが増加するのに伴い、業務アナリストが信頼できるデータを見つけ出すことは難しくなっています。そして、セルフサービスアナリティクスイニシアチブの成功には、IT部門と業務部門の効果的なコラボレーションが欠かせません。適時性と関連性の高いデータをベースにセルフサービスアナリティクスを実行することで、データに基づくインサイトの価値を最大限に引き出すことができます。Informatica®のソリューションにより、業務担当者はマルチクラウド環境とハイブリッド環境にまたがるAI主導の信頼できるデータを簡単に活用できるようになります。

データカタログによるデータの探索と把握

生産性と信頼性に優れたセルフサービスアナリティクスを実行するためには、業務担当者向けに信頼性と関連性の高いデータ資産を可視化して、レポートの作成と利用を支援する必要があります。インフォマティカのAI主導のEnterprise Data Catalog (EDC) により、業務アナリストは使い慣れたセルフサービスアナリティクス環境内で、全社規模でデータ資産を簡単に探索して把握できます。EDCを使用して、データとメタデータを並べて表示することで、レポートとダッシュボードの信頼性と理解を高めることができます。



図1：Tableau環境内でのEDCプラグインの実行例

アジャイルなクラウド分析

データユーザーは、分析に使用するデータのブレンドや変換を迅速に行うことを求めています。Informatica Intelligent Cloud ServicesSMのデータウィザード、あらかじめ組み込まれたマッピング、テンプレートにより、業務担当者は信頼できるデータを準備してセルフサービスアナリティクスで利用できます。一般の統合担当者やIT部門は、さまざまなクラウドと従来型のデータソース（Salesforce、Amazon Redshift、Microsoft Azure、Google Cloud、Workday、NetSuite、SAP、Oracle、Adobe、Marketoなど）から各自のアナリティクス環境（TableauやMicrosoft Power BIなど）へデータを迅速に統合できます。

次世代アナリティクスのためのインテリジェントなデータレイク管理

従来のデータソースやSaaSソリューションからのデータに加え、ソーシャルメディア、Webサイト、ログファイル、IoTデバイスといった非構造化データソースからのデータが増え続けている今日、アナリストはこれらのデータを効果的に活用する必要があります。インフォマティカのIntelligent Data Lake[®] Managementソリューションでは、業務担当者はセルフサービスアナリティクスで利用できるように関連性の高い信頼できるデータの探索、把握、プロファイリング、クレンジング、準備を適切に行えます。

信頼できるデータに基づくセルフサービスアナリティクス

アナリティクスの成否は、分析に使用するデータの質によって決まります。優れた視覚化機能やダッシュボードで信頼できるビジネスインサイトを獲得するためには、関連性の高いデータ基盤が不可欠です。質が低く、重複があり、不完全なデータではその目的を達成できません。インフォマティカのデータ品質およびデータガバナンスのソリューションでは、クリーンで関連性が高く信頼できるデータをセルフサービスアナリティクス環境へ提供することで、業務上の価値を高めることが可能になります。

統合ハブによるデータのオンデマンド提供でセルフサービス環境を促進

業務担当者には、データへのタイムリーなアクセス環境が必要です。インフォマティカの統合ハブによって、IT部門は業務部門で高まるデータ需要に対応することができます。パブリッシュ/サブスクライプ型の統合パターンを使用する統合ハブでは、業務担当者はデータソースの複雑さを感じることなく、セルフサービスアナリティクスのユーザーとアーチファクトには「唯一無比のデータソース」が自動的に提供されます。統合ハブをデータの支柱として、アナリティクス、ダッシュボード、レポートにおいて、信頼できるデータをセルフサービスで統合、管理、共有できます。

ハイブリッドとクラウドのデータ統合によるクラウドへの移行

インフォマティカのソリューションでは、大量の運用レポートやダッシュボード、繰り返し行うデータ統合のために、さまざまなクラウドソースやオンプレミスソースからクラウドデータウェアハウス（Amazon RedshiftやMicrosoft Azure Data Warehouseなど）へ自動的にデータを統合、変換、ロードできます。また、統合したデータを広く使われているアナリティクスツール（TableauやPower BIなど）へ自動的に直接パブリッシュして、それらのツールのオンライン版、デスクトップ版、またはサーバー版からアクセスすることも可能です。Tableau Data Extract（TDE）、Hyper、Microsoft Common Data Model（CDM）などの形式をサポートしています。

インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要とされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

今後のステップ

[Informatica Enterprise Data Catalogのデータシート](#)の詳細はこちら

Informatica Intelligent Cloud Servicesの[無料体験版](#)はこちら。

